

第3回 上質な寄港地観光の造成に向けた意見交換会概要

(ロイヤル・カリビアン・クルーズ・リミテッド社)

- ロイヤル・カリビアン・クルーズ・リミテッド社より寄港に際して日本に求めることを説明。
 - 自分たちの運航する世界最大級のクルーズ船がつくことができるような港が増えており感謝する。
 - 2019年から出国税が課税されることとなる。これはクルーズ船社としては政府の決断をあまり歓迎することはできなかったが、この税収をクルーズツーリズムに関するインフラ、旅行施設、入国審査の施設などへ充てるという目的を考えると、最終的にこれは正しい決断だと思えるようになった。
 - 今後、トップクラスの大型船を連れてきたいとは考えているものの、入国審査に時間がかかりすぎている。このまま9000人規模のクルーズ船では2時間のステイに3時間のチェックを行わなければならない。入国審査プロセスの簡素化や船上での入国審査処理を考えていただきたい。
 - また、中国では観光の開発に対してかなりの投資が行われており、日本は観光地の開発に関して中国よりも遅れを取っているような印象がある。

- 当日プレゼンテーションを行った各港（八代港、鹿児島港、下関港、沖縄各港）からは拠点港間の連携、寄港地側の抱える課題、各地の歴史をモチーフにしたツアーについて提案がなされた。